



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 24

2017.11.15

～グループ活動と交流～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

Hola! こんにちは。さてさて、前回のプラ・ビダからかなり月日が経過していますが、10月の現地での活動と本邦研修について紹介させていただきます。

■セバディージャ村（南側）でのグループ活動

グループ活動の一環として、10月10日、コミュニティの清掃活動が実施されました。2016年にも実施され2回目の清掃活動です。目的は、よりコミュニティを清潔にすることはもちろんのこと、各家庭の中庭等に放置してある粗大ごみ（テレビ、洗濯機、冷蔵庫等）を回収して、蚊を媒体とした病気（デング熱、チクングニア熱、ジカ熱）の削減のために行われました。粗大ごみの回収は、住民だけではなく廃棄物回収を専門とする民間企業（WPP）の協力の元、実現されました。20名の参加があり、実施日の前日にコミュニティへの粗大ごみ回収の事前案内（不必要なものを玄関前に出しておいてほしいというお願い）がされたのですが、もちろん回覧板や連絡網といったようなシステムはなく、生活改善グループ員が個人的に隣人や知り合いに直接案内する形をとりました。当日は午前中いっぱい、路上に落ちているお菓子の袋、ペットボトル、空き瓶等の収集をビニール袋を持って歩きながら行いました。作業終了後は、グループ員の家にて全員でお昼を食べお互いの労をねぎらいました。今後については、まずは定期的に清掃活動の仕組みづくり、その後、コミュニティ住民のごみに対する意識向上に向け、策を練っていく必要があります。



■本邦研修開催

9月下旬から10月初旬にかけて、オロティナ及び中部太平洋地区のファシリテーターの生活改善アプローチの能力向上のため、日本で研修が実施されました。JICA筑波にて各先生や専門家の講義、長野県松川町や飯田市の生活改善グループとの交流を通して、さまざまなことを学んで帰国しました。

詳細は以下のJICA筑波のホームページをご覧ください。

「いざこざがあってもくじけない！」-草の根技術協力事業「コスタリカ国 生活改善アプローチによる農村開発モデル事業」本邦研修」<https://www.jica.go.jp/tsukuba/topics/2017/ku57pq00000hu12v.html>

また次号で、コスタリカに戻った後、各研修員がどのような活動に取り組むかの発表についてご紹介致します。



■生活改善グループ全国大会開催

10月の初旬に農牧省本庁主催の生活改善グループ員向けの全国大会が実施されました。オロティナからも、サンタリタ村から2名、セバディージャ村から3名のグループ員が参加しました。趣旨は、コスタリカ全土（8地域）の生活改善グループ員を招集して会合を開き、そこでワークショップを介して、生活改善活動を始めて、感じたこと、変化したこと、また良かった点についての意見交換を行うことです。昨年（2016年）は、ファシリテーター向けの全国大会が開催されましたが、今回は集落住民向けです。コスタリカ全土のファシリテーターに関しては、頻繁ではないですが情報交換等をする機会があります。しかし、集落のグループ員が一度に集まり交流する機会が初めてでした。

「あなたにとって生活改善とは？」というワークショップでは、各地域のグループ員が混成チームより発表があったのですが、その発表方法は多彩でした。画用紙に絵や文字を使って表現するチーム、歌や演劇を通して表現するチーム等々、さまざまな方法で自分たちが考える「生活改善」を参加者や引率のファシリテーターに発表していました。

また、地域ごとの発表もあり、サンタリタ生活改善グループ、セバディージャ生活改善グループから、これまでに取り組んだ改善事例の共有、また2018年の目標の発表がありました。発表者であるサンタリタ村のシェルリーさんは以前、人前で話すだけでも緊張のあまり涙していましたが、この場では堂々と話をしていました。セバディージャ村のロシベルさんは立派なホテルに宿泊することが1つの夢だったと語り、今回の全国大会に参加出来たこと、コスタリカ全土で生活改善活動を実施しているグループがあること、またグループ員とさまざまな取組を共有出来たことで、私たちもいろいろなチャレンジが出来るというモチベーションが上がったと語りました。



それでは、また次号で。¡Adios!(アディオス)